

フジ・メディア・ホールディングス

CSRレポート 2018

FUJI MEDIA HOLDINGS

CSR REPORT

[2017年4月～2018年3月]



フジ・メディア・ホールディングス

認定放送持株会社（株）フジ・メディア・ホールディングスは、メディア・コンテンツ、都市開発・観光、その他の3つのセグメントからなるメディアグループです。

3つのセグメント [2018年度～]

メディア・コンテンツ	都市開発・観光	その他
フジテレビ	サンケイビル	フジミック
共同テレビ	グランドホテル & リゾート	フジキャリアデザイン
ニッポン放送	サンケイビル リゾートメント	FCI
FCC	サンケイビル テクノロジー	
BSフジ		
フジアール		
フジゲームス		
仙台放送		
FMT		
クオラス		
扶桑社		
NEXTEP		
ディノス・セシール		

主な子会社等

CSR活動方針 [CSR=Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任]

フジ・メディア・ホールディングスのCSR活動は、その長期的ビジョンの達成を図り、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者・株主・投資家・取引先等を始めとする国民の支持を頂き、フジ・メディア・ホールディングスの持続的な成長を確保するための活動です。

そのため、フジ・メディア・ホールディングスはグループ・ガバナンスの構築、グループ・コンプライアンスの確保を図り、適時・適切な情報開示を行いながら、視聴者・聴取者・読者・利用者・消費者の皆さま等の顧客満足度の向上、経営環境の変化に対応した新たな企業価値の創造をめざして、事業活動を通じた社会への貢献、地球規模の環境保全や身近な環境活動を積極的に進めていきます。

活動体制

フジテレビジョン/BSフジ/ニッポン放送/共同テレビジョン/フジクリエイティブコーポレーション/NEXTEP/フジアール/フジ・メディア・テクノロジー/ポニーキャニオン/フジパシフィックミュージック/ディノス・セシール/サンケイリビング新聞社※/クオラス/サンケイビル/扶桑社/フジミック/エフシージー総合研究所/フジキャリアデザインの18社とフジ・メディア・ホールディングス本体の計19社で、CSR推進委員会を年に1回開催しています。またその下部組織・CSR推進連絡会議を年4回開催し、CSR活動の報告や今後の展開を議論しています。

※(株)サンケイリビング新聞社は2018年3月に連結子会社から持分法適用関連会社になりました。



2017年度CSR推進連絡会議メンバー

CONTENTS

トップメッセージ

株式会社フジ・メディア・ホールディングス - 3

代表取締役会長 嘉納修治

代表取締役社長 宮内正喜

特集 Cover Story

『環境クライシス～沈みゆく大陸の環境難民～』 - 5

子どもたちのために

Support for the Next Generation

各社出前授業・職業体験プログラム

「あなせん」プロジェクト - 7

「ハロー！どっこくん」 - 8

「こどもミュージックプログラミング」 - 8

「美術館へいってみよう！」 - 8

「エコキッズ探検隊2017」 - 9

鴨川シーワールド

「さめ先生の特別レクチャー&メガマウスザメ公開解剖」 - 9

武蔵野大学「未来都市とメディア」 - 9

ブックフォースマイルへ寄付 - 9

社会のために

Contribution to Society

ラジオチャリティミュージックソン - 10

東京2020にむけて～みんなのメダルプロジェクト他 - 11

『PARA☆DO』 「HAND SIGN」 - 12

ダイバーシティ社会をめざして - 13

コンテンツにおけるバリアフリー - 14

コースマーケティングによる社会貢献 - 14

FNSチャリティキャンペーン - 15

高松宮殿下記念世界文化賞・美術館支援・赤ひげ先生 - 16

災害復興支援

Support for Reconstruction
of the Disaster-affected Areas

「ずっとおうえんプロジェクト」 - 17

ふくしま浜街道・さくらプロジェクト - 18

「こども笑顔プロジェクト」 - 18

番組を通じた災害復興支援 - 19

「支えたいプロジェクト」 - 20

災害情報システムの提供 - 20

環境のために

For Environment

合同清掃活動 - 21

省エネ・リサイクルの取り組み - 22

ロハスフェスタin光が丘公園 - 22

地球環境大賞 - 23

マネジメント体制 / 財務サマリー



2030年に向けて
世界が目指した
「持続可能な開発目標」です

本レポートでは、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）の17の目標に関連する活動にアイコンを付けました。詳しい説明は25ページをご覧ください。

編集方針

本レポートはフジ・メディア・ホールディングス各社が2017年4月1日から2018年3月31日までにに行ったCSR活動をまとめたものです。2017年度も、主たる事業である放送とエンターテインメントを活かして、多岐にわたる活動を行ってきました。本レポートはそれらを皆さまにご理解頂きやすいよう編集したものです。ご意見、ご感想などがございましたらお寄せ下さい。

✉ csr.ss@fujitv.co.jp フジ・メディア・ホールディングス CSR推進室

地球市民の一員として グループ一丸で持続可能な社会を創る



株式会社フジ・メディア・ホールディングス

代表取締役会長

嘉納 修治

Chairman and
Representative Director
Shuji Kanoh

代表取締役社長

宮内 正喜

President and
Representative Director
Masaki Miyauchi

人と人をつなぐCSR

フジ・メディア・ホールディングスは、映像、音声、活字、広告、通販、不動産など幅広い事業を展開しているメディアグループです。社名に「メディア」という言葉が入っているように、どの社も人と人をつなぐメディアの役割を果たしています。グループが行っているビジネスのほとんどに「人」が介在します。サービスを受け取る人が満足感を得たり、情報を得たことで何か次のアクションの役に立つ、人と人をつなぐ媒体になっている。— そういう意味をこめて私たちは「笑顔」をつなげる、そして「心」をつなげることをCSRのスローガンとして掲げています。

2017年度も「つなげる笑顔 つながる心」というスローガンの下、各社の特徴を活かし、未来を担う子どもたちに夢を届ける取り組み、ダイバーシティ社会に向けた取り組み、自然環境に配慮した取り組みなど幅広い活動を行いました。

国連グローバル・コンパクトに署名

フジ・メディア・ホールディングスは、2018年4月に国連グローバル・コンパクトに署名しました。これは、国連が掲げる10の原則に賛同し、社会の良き一員として持続可能な社会を実現するための枠組み作りに参加するという私たちの意思表示です。

これを機にメディアグループとして、今まで以上に持続可能な社会の実現に貢献できるよう、人々の幸せにつながる新しい価値を創出していきたいと思いをします。

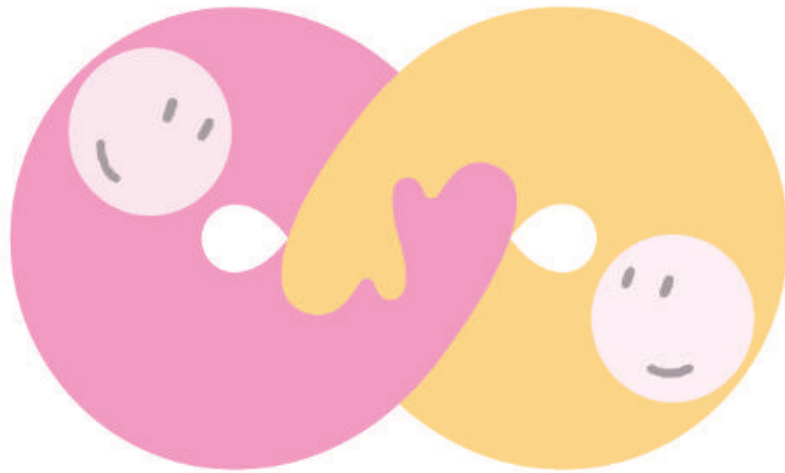
国連グローバル・コンパクト

戦後世界が合意形成してきた共通の価値観を平易な10原則にまとめ直し、これを内外のステークホルダーに浸透させる活動を通して、「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組みです。1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）においてコフィー・アナン国連事務総長（当時）が提唱しました。2018年3月時点で世界約160ヶ国・約1万3,000の団体（そのうち企業は約9,700）が署名し、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開しています。



- | | |
|-------|-------------------------------------|
| 原則 1 | 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである |
| 原則 2 | 企業は、自らが人権侵害に加担してはならない |
| 原則 3 | 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである |
| 原則 4 | 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである |
| 原則 5 | 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである |
| 原則 6 | 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである |
| 原則 7 | 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである |
| 原則 8 | 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである |
| 原則 9 | 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである |
| 原則 10 | 企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである |

フジ・メディア・ホールディングス CSRスローガン



つなげる笑顔 つながる心

メディアの力でできること∞
無限大

フジ・メディア・ホールディングスは
多様なメディアの集合体です。

各社業態は異なりますが、
共通する思いは

「創造する力」を通じて人と人とをつなぎ
笑顔をつくること。

社会の一員として
どんな社会課題の解決に結びつけられるかを
常に考え、行動し続けます。



環境ドキュメンタリー番組

環境クライシス

～沈みゆく大陸の環境難民～を放送

深刻な現状を映像で伝え
環境問題について考えるきっかけを提供

2017年8月19日 土曜 10:25～11:45



海面上昇によって沈みゆく島で海を見つめる少女ジリック



次々と“環境難民”が流れ着くインド・コルカタ市内のスラム街

気温が50度を超える砂漠で
10キロの道のりを歩き水汲みする少女シーマ

地球上で急速に進む気候変動

パキスタンからインド北西部にかけては、2017年以降断続的に熱波が発生、最高気温53.5度が観測されています。日本でも各地で猛暑やゲリラ豪雨に見舞われています。こうした異常気象は、気候変動が原因の一部と言われており、経済大国となりつつあるインドでも、気候変動に伴う洪水や海面上昇・干ばつなどの被害が起きています。そんな現状をリアルに映し出すドキュメンタリー番組『環境クライシス』では、苦しくてもたくましく生きる子どもたちの姿や、地球温暖化に対し日本が取り組んでいるプロジェクト等も取材・放送しました。



大塚隆広プロデューサー



この番組は、環境への意識を子どもたちの世代に考えてもらうきっかけとなつてほしいとの思いで作りました。難解になりがちな環境問題を、現地に生きる人々の生活をベースに描くことで視聴者と同じ目線で伝えたいと考えました。私たちは気候変動を終わらせることができる最後の世代だとも言われています。ひとりひとりができることを考え実行することが、地球を救うことにつながると考えています。そのために環境問題をテーマにした番組を継続して制作していきたいと考えています。



インド・ジャaisalメールの砂漠地帯

当番組がCOP23の ジャパンパビリオンで特別上映

2017年11月6日～17日にドイツのボンで開かれたCOP23 [国連気候変動枠組条約第23回締約国会議]で、『環境クライシス～沈みゆく大陸の環境難民～』が、日本政府主催のジャパンパビリオンで上映されました。これは日本のメディアとして初めてのことです。上映会は多くの来場者で満席となり、映像で映し出される深刻な現状に釘づけになっていました。



フジテレビCSR担当と
環境ジャーナリスト竹田有里さん



ジャパンパビリオンに集まった各国の専門家たち



子どもたちのために Support for the Next Generation

各社本業を活かした 出前授業や体験イベントを実施

フジテレビ / 扶桑社



“伝えるプロ”による出前授業でコミュニケーション能力の向上に貢献

「あなせん」プロジェクト

携帯やスマートフォンなどの普及により、子どもたちのコミュニケーション能力の低下が指摘されています。「あなせん」（＝アナウンサー先生）プロジェクトは、話し方、聞き方、伝え方の「コツ」を現役のアナウンサーが教えるとともに、キャリア教育の一環としてテレビ局の仕事を知ってもらう機会を提供しています。Face to Faceのコミュニケーションを大切にしながら「伝え合う力」は「生きる力」につながると信じて2005年から活動を継続しています。



オリジナルテキストは扶桑社と協働して制作



渡辺和洋アナウンサー



本物の機材でカメラマン体験 千葉市立真砂西小学校にて

- 対象：小学校3年生～6年生
- 講座内容：[スピーチ][インタビュー][音読]
- 実施エリア：フジテレビの放送圏内（関東1都6県）

2017年度は、

18の学校で**1,760**人を対象に実施

13年間で合計 **15,730**人が受講

●「あなせん」ホームページ <http://www.fujitv.co.jp/csr/anasen/>



岩手めんこいテレビとコラボ 系列局による「あなせん」を実施（岩手県盛岡市）

食育出前授業 「ハロー！どっこくん」

フジテレビ / エフシージー総合研究所



季節の食材をバランスよく食べることや運動の大切さを教える食育出前授業を行っています。アナウンサーによる大型紙芝居の読み聞かせやうんちのキャラクター「どっこくん」体操などで構成された約40分の楽しいプログラムです。2010年にエフシージー総合研究所をはじめとするフジ・メディア・ホールディングス各社が協働してスタート。今では全国で展開しています。



2017年度は **22**ヶ所に伺い **3,281**人の子どもたちと出会いました！
(全26回開催)



これまでに **161**ヶ所に伺い **18,690**人を対象に実施



千葉県柏市 柏幼稚園



千葉県浦安市 富岡幼稚園

「こどもミュージックプログラミング」

ポニーキャニオン



2020年より全国小中学校でプログラミング授業が必修となるのを受けて、音楽という切り口で簡単に親しんでもらえる機会をレコード会社として提供し、将来のクリエイターが育つきっかけ作りになればと思い実施。最初は戸惑っていた子どもたちも、笑顔で曲作りを楽しんでいました。

「ボーカロイド教育版」を使用し作詞・作曲を行う1DAY講座を
7ヶ所10講座開催 参加者：135人



子どもたちの感想

「楽しかった、またすぐやりたい」
「曲作りの難しさ、生みの苦しみを
知った」

「美術館へ行ってみよう！」

フジ・メディア・テクノロジーのフォトエージェンシー部門 amfが江東区立深川第二中学校にて、美術の特別授業を行いました。これは昨年度に続き2回目です。美術館の存在意義・鑑賞の注意点・その楽しみ方を4Kモニターに作品を映し出しながら解説しました。

フジ・メディア・テクノロジー



「エコキッズ探検隊2017」

子どもたちが夏休みに生き生きと遊びながら学び、作り、様々な体験ができる「エコキッズ探検隊」に協賛。13年目を迎えた今回は、新たにフジテレビキッズとの協業によるガチャピンとムックの「エコ教室」やプロの着付師による「浴衣の着付教室」を開催。また、前回好評だった絶滅危惧種のウミガメに触れられる「ウミガメの移動教室」、産経新聞をはじめとした大手町・丸の内エリアの企業訪問も行いました。

サンケイビル



©FUJITV KIDS

鴨川シーワールド

「さめ先生の特別レクチャー&メガマウスザメ公開解剖」

2017年5月に千葉県館山市洲崎沖の定置網に世界的にもめずらしい大型のメガマウスザメが迷入しました。翌朝死亡が確認されましたが、大変貴重なサメであることから、調査研究に役立てたいと、鴨川シーワールドで引取り冷凍保存。北海道大学 仲谷一宏名誉教授をお招きし、特別レクチャー及び公開解剖を行いました。公開解剖は、鴨川シーワールドの年間パスポート会員であるドルフィンドリームクラブの小・中学生会員限定で募集しました。[2018年2月24日]



BSフジ×武蔵野大学寄附講座

「未来型都市とメディア」

東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に、2016年からBSフジと有明にキャンパスがある武蔵野大学が、講座運営を基本として臨海地区の地域づくりと相互の発展に寄与する包括協定を締結。2年目となる2017年度は、BSフジを窓口として、フジテレビ関連の番組制作、編成、営業、技術、経営、CSRなど幅広い経験を持つ現役・OBたちが講師を務め、メディアの現状や体験談、未来の放送予測までを学生に講義しました。2017年度は200人近い学生が受講し、テレビ局の仕事や未来のメディア環境と臨海地区、さらにこれからの時代を担う若者たちの将来を考えました。

BSフジ



フジ・メディア・ホールディングス各社で支援

●ブックフォースマイルへ寄付

フジ・メディア・ホールディングス各社

NPO法人「ブリッジフォースマイル」による書籍の寄贈を通じて児童養護施設から社会へ巣立つ子どもたちを応援するプロジェクトに賛同しています。不要となった書籍、本等を株式会社バリューブックスへ売却。売却代金はNPO法人ブリッジフォースマイルへ寄付され、児童養護施設を巣立つ子どもたちの自立支援に充てられています。

2017年度は、9社から合計**2,885冊**が寄付され
134,702円が支援に回りました。

※ 単行本15冊で進学を希望する若者1人に1時間分の勉強時間をプレゼントできます。(時給750円換算)



※2014年度からの合計 16,163冊
寄付総額 75万2,027円



社会のために For Society



フジ・メディア・ホールディングス各社



視覚障害者のためのチャリティを40年以上継続

「第43回 ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」

ラジオ・チャリティ・ミュージックソンは、ニッポン放送が1975年から行っている視覚障害者のためのチャリティ活動です。毎年クリスマス・イヴからクリスマスにかけての24時間の特別番組を中心に、ラジオを通じて募金を呼びかけるもので、今回が43回目。寄せられた募金は、目の不自由な方が安心して街を歩くのに役立つ「音の出る信号機」の設置や、本を音声朗読した「声の図書」「立体コピー」など多数の視覚障害者用教育機器などに使われます。このラジオ・チャリティ・ミュージックソンへの協力をフジ・メディア・ホールディングス各社の有志で毎年継続しています。

● 第43回のパーソナリティはオードリー

オードリーが「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」を担当するのは2010年以来、7年ぶり2回目。今回のテーマは「愛と笑いを届けたい!」。オードリーの2人は、ニッポン放送のレギュラーパーソナリティをはじめ、「オールナイトニッポン」ゆかりのゲストらと笑い溢れるトークを繰り広げ、リスナーからの温かいメールを紹介しながら募金を呼びかけました。



2017年は、フジ・メディア・ホールディングスの14社から46人が、募金の電話受付と街頭募金活動で支援しました。



- 実施日：2017年12月24日正午～25日正午
- パーソナリティ：オードリー
- 募金受付期間：2017年11月1日～2018年1月31日

これまでに **3,094基**の「音の出る信号機」が設置されました。

最終募金額 **7,212万8,547円** これまでの合計金額 **44億9,332万17円**



東京オリンピック・ パラリンピックにむけて

2020年に東京で開催される東京オリンピック・パラリンピック。1964年以来56年ぶりに日本で開催されるスポーツの祭典に向け、地域とも連携しながら様々なレガシーを残せるよう取り組みを始めています。

「都市鉱山からつくる！ みんなのメダルプロジェクト」に参加

フジ・メディア・ホールディングス各社



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の入賞メダルを使用済みの小型家電から製作するプロジェクトに、フジテレビがメディアとして初めて参加。フジ・メディア・ホールディングス各社にも呼びかけをし、不要になった携帯電話など小型家電の回収をスタートさせました。

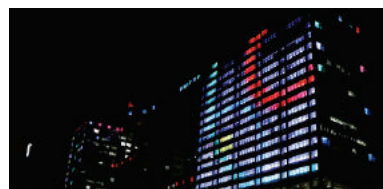
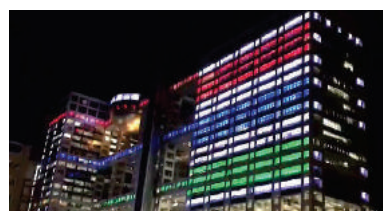
フジテレビでは、多くの社員が利用する社員食堂の前に回収ボックスを設置。フジ・メディア・ホールディングス各社もそれぞれの方法で回収に協力しています。



オリンピック・パラリンピック 1000日前をライトアップで発信！

フジテレビ

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し、東京オリンピックまであと1000日という節目の2017年10月28日夜に、五輪マークの5色をあしらったスペシャルイルミネーションを実施しブームアップに貢献しました。また、東京パラリンピック1000日前の11月29日夜には、パラリンピックのシンボルカラーの赤・青・緑をモチーフにした躍動感あふれるライトアップを実施。東京タワー、東京スカイツリーも赤・青・緑にライトアップされ、この日の様子は、夜のニュース番組『THE NEWS α』でも放送しました。



『ニッポンチャレンジドアスリート』

ニッポン放送

障害者スポーツの魅力を伝え、応援・啓蒙するラジオ番組『ニッポンチャレンジドアスリート』の放送を2015年4月より継続しています。イベントでのブース展示、試合観戦なども実施し、パラスポーツを応援しています。

[毎週月曜～金曜 13:42～13:47放送]





パラスポーツの魅力をレギュラー番組やイベントで発信！

『PARA☆DO!』

フジテレビ

PARA☆DO!

～その先の自分へ～

毎週水曜 22:54～23:00放送（関東ローカル）



Photo : Kenji Kinoshita

『PARA☆DO!』は、2020年に向けてパラスポーツのムーブメントを起こし、障害の有無に関係なく誰もが互いを認め合い、生き生きと生活できる共生社会の実現に向けて、パラスポーツを応援していくプロジェクトです。地上波レギュラーの番組では、アスリートやそれを支える人たちの、前向きに挑戦する姿を紹介。また2017年度はイベントでも様々な新しい仕掛けを実施。夏のイベント「お台場みんなの夢大陸」では、TOKYO GIRLS COLLECTIONとコラボしたパラアスリートのランウェイを実現したイベントを開催[2017年8月24日]。11月23日にはTOYOTAとコラボし、アイドルAKB48 Team 8とのボッチャ対決イベントを実現。さらに、平昌パラリンピックのメダリストの凱旋イベントにも企画制作協力しました。[2018年3月20日]

- 『PARA☆DO!』ポータルサイトでは、アーカイブ、SNS、ライブ配信なども展開
<http://www.fujitv.co.jp/sports/parado/index.html>



音楽を通じて手話を身近に

フジパシフィックミュージック

「HAND SIGN ～手話ダンススクール2017」を開催

手話を取り入れた男性ボーカル&パフォーマンスグループ「HAND SIGN」は、ダンスを通じて子ども達に手話を広める普及活動を地元平塚市で行っています。実際に聾啞者の子ども達も参加し、健常者の子ども達と一緒に一生懸命楽しみながら練習していました。このスクールは、初心者向けの「オープンクラス」、「HAND SIGN」の曲『僕が君の耳になる』の振り付けをコピーする「僕が君の耳になるコース」、J-POPを使用してレッスンを行う「手話ダンス上級コース」の3クラス、計8回開講されました。



- 「HAND SIGN」はフジテレビパラスポーツ応援プロジェクト『PARA☆DO!』のオフィシャルアーティストになりました。

ダイバーシティ社会をめざして

社屋イルミネーション「グリッター8」を活用し社会課題への支援の意志を発信しています。ライトアップにより「知ってもらう」きっかけを提供し、問題解決につなげる目的で始めたプロジェクトです。誰もが偏見や差別を感じることなく、多様な価値を認め合うダイバーシティ社会をめざして2015年4月より継続しています。



● 地域とも連動

このアウェアネスカラーライトアップの取り組みは、臨海副都心に事業所がある会社や団体からなる「東京臨海副都心まちづくり協議会」とともに実施しています。自由の女神像や東京ビッグサイト、東京ゲートブリッジなどの施設が同日に同じ色で点灯することで、街全体で支援のメッセージを発信しています。自由の女神像のライトアップにはフジ・メディア・テクノロジーが技術協力しています。

一緒に点灯してくれた施設や企業

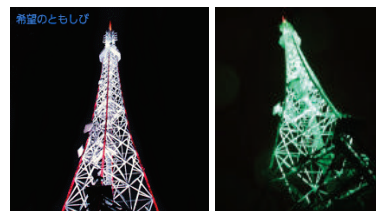
東京ゲートブリッジ・東京ビッグサイト・レインボーブリッジ・パレットタウン大観覧車・自由の女神像・デックス東京ビーチ・乃村工芸社

2017年度に実施したライトアップ

- 4月2日 世界自閉症啓発デー（ブルー）
- 5月5日 LGBTを含むあらゆる差別・偏見をなくす（6色レインボー）
- 9月21日 国際平和デー 世界平和を考える（白・ピースマーク）
- 10月1日 乳がんの予防啓発（ピンクリボン）
- 10月16日 臓器移植への理解促進（グリーンリボン）
- 11月1日 児童虐待防止（オレンジリボン）
- 11月12日 女性に対する暴力の根絶（パープルリボン）
- 12月1日 世界エイズデー（レッドリボン）
- 1月20日 障害者権利条約が日本で発行された日（イエローリボン）

仙台スカイキャンドル ライトアップ

フジテレビ系列仙台放送の大年寺山送信所鉄塔「仙台スカイキャンドル」のライトアップの照明プロデュース・デザインプログラミングをフジ・メディア・テクノロジーが行っています。LED照明による様々な色のライトアップで社会課題への支援を表すとともに、LEDの使用で、消費電力は従来の約20%と省エネにも貢献しています。
[2012年6月～継続]



希望のともしび
東日本大震災の鎮魂と復興への願いを込めた希望のともしび

● 放送とも連動

ライトアップに合わせて番組内で社会課題についての企画を放送したり、この取り組み自体について紹介するなど、放送とも連動しました。



10月16日 グリーンリボン

コンテンツにおけるバリアフリー

あらゆる人にコンテンツを楽しんでもらうために



放送におけるバリアフリー

フジテレビ / 共同テレビ / FCC / フジミック

● 字幕放送

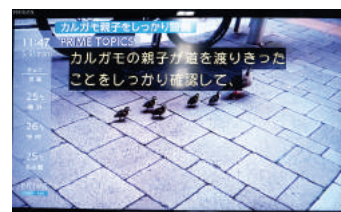
フジテレビでは、7時～24時のすべての収録（生放送以外）番組に字幕を付与しています。2016年度は、字幕付与可能時間に対して100%の付与率を達成しました。

● 解説放送

「解説放送」は主に目の不自由な方々にテレビを楽しんで頂くために副音声を使って画面の解説を行うもので、セリフだけでは伝えきれない場面設定や出演者の動きなどをナレーターが簡潔に説明しています。今後もより多くの番組に解説放送を付与できるよう努めていきます。

● 字幕データ放送

どの地域でも字幕放送を視聴できるように、番組素材に字幕放送データを付与して各系列局に供給。番組素材をデータファイル化して字幕を同梱し、各局の放送時間にオンラインで配信しています。



■ 手話放送

『テレビ寺子屋』にて手話放送を行っています。
[毎週日曜5:10～5:40]

■ 解説放送番組

『ワンピース』『はやく起きた朝は…』『ちびまる子ちゃん』『サザエさん』『MUSIC FAIR』
金曜や土曜の単発ドラマや邦画など

映画におけるバリアフリー

フジテレビ

フジテレビが製作している映画には、聴覚障害者の方々にもご鑑賞頂けるよう、日本語字幕を付けて上映し、後日発売されるDVD・Blu-rayにも字幕を付けています。また、視覚障害者の方々にも映画をお楽しみ頂けるよう「音声ガイド」を付けたバリアフリー上映も増えてきています。

音声ガイドとは？

映画の視覚的な情報を補うナレーションです。視覚障害者は、映画の音や台詞を聴き、映像を想像しながら楽しめます。その想像をより豊かにするのが、「音声ガイド」の役割です。

■ 2017年度に音声ガイド付き上映を行った作品

『帝一の國』
『昼顔』
『三度目の殺人』
『ミックス。』
『今夜、ロマンス劇場で』



『昼顔』
©2017フジテレビジョン
東宝 FNS27社



『三度目の殺人』
©2017フジテレビジョン
アミューズ ギャガ

コースマーケティングによる社会貢献

お買い物で支援

ディノス・セシール

乳がんの早期発見・早期治療を推進する「ピンクリボン運動」に賛同し、2016年よりスタート。2017年度も年間キャンペーンとして、レディスインナーカタログ「セシレーヌ」掲載のブラジャー1点購入につき1円を、日本対がん協会「乳がんをなくすほほえみ基金」へ寄付しました。寄付金は乳がんの啓発活動や患者支援等に役立てられます。

※コース・リレーテッド・マーケティングは、慈善事業協賛型マーケティングと訳されます。現在ではコース・マーケティング、コース、寄付つき商品・サービスと称されることも多く、販売連動型チャリティ、という表現も使われます。





世界の子どもたちの貧困解決にむけて

FNSチャリティキャンペーン

FNSチャリティキャンペーンは、「世界の子どもたちの笑顔のために」をメインテーマに実施しているチャリティ活動です。フジテレビ系列各社及びBSフジが放送やイベントを通じて募金活動を行い、日本ユニセフ協会を通じて国際貢献を行ってきました。40年以上に及ぶ活動の募金総額は約42億円に達しており、アジア・アフリカなど世界の開発途上国の子どもたちのために役立てられています。



● 第44回 2017年度の支援国 ボリビア多民族国

2017年度は、南米中西部に位置する内陸国・ボリビアを支援しました。ボリビアは、天然資源に恵まれ、近年は年間4～5%の経済成長をとげていますが、今なお南米で最も所得水準が低い国のひとつで、国民の半数が貧困層に属していると言われています。最も深刻な社会問題のひとつが児童労働で、人口約1,080万人のうち約50万人の子どもが働いています。路上での靴磨きや露店などで働いている子どももいれば、より危険な農場や鉱山などで厳しい労働を強いられている子どももいます。また働く子どもの58%が14歳未満です。過酷な環境で暮らす子どもたちを支援するため『とくダネ!』の内野泰輔アナウンサーと取材班は2週間にわたり現地を取材、5月23日と30日の『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。また全国のアナウンサーと取材班は2週間にわたり現地を取材、5月23日と30日の『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。また全国のアナウンサーと取材班は2週間にわたり現地を取材、5月23日と30日の『とくダネ!』で放送し、協力を呼びかけました。



2017年度の主な活動



【番組による募金活動】

- 『とくダネ!』内で内野泰輔アナウンサーによる報告
- 「“天空の鏡”に映らない子どもたち～ボリビア多民族国～」
フジテレビ系列局の地上波とCS・フジテレビTWO/NEXT、BSフジで放送

【イベントにおける募金活動】

- 内野・山中・森本・佐々木アナから歴代の取材アナ4人による
パネルディスカッション「私たちが取材した子どもたち」を開催
- 内野アナによる現地取材報告講演会
- 「ふるさと祭り東京2018」会場 全国地酒ブース
- 「お台場みんなの夢大陸2017」でのフリーマーケット
- 「トーテム」及び「キュリオス」会場内「くるくる募金箱」
- その他系列各局イベント

【フジテレビ製作の映画収益からの寄付】

- 映画『昼顔』の収益から総額600万円を寄付

【社内交流イベントによる募金活動】

2017年4月と2018年3月に社員食堂でチャリティフェスタ「ちょい呑み」を開催
売り上げ（経費を除く）を全額寄付
4月:35万8,636円/3月:41万60円 合計76万8,696円

2017年度の募金総額

最終寄付金額 **3,657万1,662円**

集まった募金は公益財団法人日本ユニセフ協会を通じて、現地の子どもたちの支援に活用されます。

フジサンケイグループの活動

フジテレビ / 共同テレビ / BSフジ

世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与

高松宮殿下記念世界文化賞

高松宮殿下記念世界文化賞

PRAEMIUM IMPERIALE

IN HONOR OF PRINCE TAKAMATSU

「高松宮殿下記念世界文化賞」は、公益財団法人日本美術協会により1988年に創設された、全世界の芸術家を対象にした顕彰制度です。故高松宮殿下の「世界の文化芸術の普及・向上に広く寄与したい」とのご遺志にもとづいて、協会創立100周年を記念して創設されました。文化芸術の振興こそが人類の平和と繁栄に資するとして、国境や民族の壁を超えて、芸術の発展、普及、向上に顕著な貢献をした個人、団体を顕彰しています。賞は絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の5部門で、受賞者には金メダルと賞金が授与されます。また次世代を担う若手芸術家の活動、行動計画を援助し奨励することを目的に1997年「若手芸術家奨励制度」が創設され、若手芸術家を育成援助している団体、または若手芸術家の団体・個人を対象に奨励金を授与しています。

2017年10月18日に29回目の授賞式が行われ、音楽部門のユッサー・ンドゥールさん、演劇・映像部門のミハイル・バリシニコフさんらが受賞しました。また若手芸術家奨励制度には、レバノンのズッカック劇団・文化協会が選ばれました。これまでの受賞者数は29ヶ国、149人となり、国境や人種の壁を越えて地球規模になっています。フジ・メディア・ホールディングス各社は同賞の趣旨に賛同し、賞の創設以来サポートしています。



2017年10月18日 常陸宮殿下をお迎えして明治記念館で行われた式典の様相

第29回 受賞者 [2017年]

写真左から

演劇・映像部門	ミハイル・バリシニコフ (アメリカ/ラトビア)
音楽部門	ユッサー・ンドゥール (セネガル)
絵画部門	シリム・ネシャット (イラン/アメリカ)
建築部門	ラファエル・モネオ (スペイン)
彫刻部門	エル・アナツイ (ガーナ)

詳しい内容につきましては世界文化賞公式HPをご覧ください。
<http://www.praemiumimperiale.org/ja/>



● 『高松宮殿下記念世界文化賞特番』を放送

フジテレビ 2017年10月26日 24:25～24:55 / BSフジ 2017年10月28日 17:00-17:30

美術館支援

フジサンケイグループの公益財団法人彫刻の森芸術文化財団が運営する「彫刻の森美術館」「美ヶ原高原美術館」、また公益財団法人日本美術協会が運営する「上野の森美術館」に対し、グループ各社と連動し、わが国の芸術文化活動の普及に寄与すべく開館時より様々な支援を行っています。

赤ひげ大賞

地域で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」(2012年創設、主催：日本医師会、産経新聞社)の第6回表彰式が2018年2月9日に行われました。フジテレビ・BSフジでは、この顕彰制度の趣旨に賛同し、後援するとともにニュース等で報道。また特別番組を編成するなど有意義なこの活動をサポートしています。



- 『密着！かかりつけ医たちの奮闘 ～第6回赤ひげ大賞受賞者～』 [2018年3月25日 13:00～13:55 BSフジにて放送]



災害復興支援

Support for Reconstruction of the Disaster-affected Areas

オリジナルの被災地復興支援活動を継続展開

フジテレビ / 仙台放送



「ずっとおうえんプロジェクト」

フジテレビずっとおうえんプロジェクト

フジテレビでは、2011年の東日本大震災発生後から被災地復興支援活動を継続しています。被災地を「ずっと忘れない」という強い思いと、エンターテインメント企業ならではの「支援力」で、“新たなコミュニティづくり”のお手伝いをしています。2017年度は東日本大震災の復興支援の一環としてサザエさん一家による「東北・みやぎ復興マラソン」応援のサポートや、九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市や大分県日田市で映画『ミニオンズ』の上映会を実施しました。



2017年度実績

8ヶ所 約3,210人を対象に27回実施

「仙台放送まつり」にサザエさんが登場

- 6月24・25日 宮城県仙台市勾当台公園

『ミニオンズ』上映会

- 8月26日 福岡県朝倉市杷木中学校
- 11月26日 大分県日田市大鶴公民館

「東北・みやぎ復興マラソン」をサザエさん一家が応援

- 9月30日・10月1日 宮城県岩沼市

「ハロー！どっこくん」

- 11月5日 「めんこいまつり」 岩手県盛岡市
- 12月15日 熊本県山都町山都みらい保育園
- 12月16日 「こどもキッチンぐるーびー」 熊本県熊本市川尻小学校
- 3月31日・4月1日 「こども博2018」 熊本県益城町グランメッセ熊本



開催累計 (2018年4月1日現在)

2011年～
これまでに **187**ヶ所 約 **21,830**人を対象に実施

フジ・メディア・ホールディングス各社

株式会社 デイノス・セシール

フジ・メディア・ホールディングスで桜の苗を寄付

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」

地震や津波、さらに放射能被害を受けた福島県で「30年後に子どもたちが誇れる桜並木を」との思いからスタートした「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」に、フジ・メディア・ホールディングス（FMH）各社は2013年度から協賛しています。2017年度はデイノス・セシールの顧客や、FMH各社などから合わせて桜155本分の寄付をし、これまでの植樹本数は1,022本になりました。2018年1月20日にFMH各社から14人が南相馬市で桜の苗木を植えました。



この活動は、2011年よりスタートしたお客様参加型の復興支援活動『東北に春をお届けします。』の一環で、2017年度はデイノスウィズ冬号カタログからのお買いもの1回につき10円をこの活動に充てさせていただき、603,320円を東北の未来を担う子どもたちに対して学びと自立の機会を提供する「ハタチ基金」に寄付しました。

フジテレビ / フジアール（八美会）

テレビ美術の力で被災地に笑顔を

「こども笑顔プロジェクト」

フジテレビ美術制作局と美術関連協力会社からなる「八美会」で立ち上げた被災地復興支援活動。2017年度は4月22日に福島県会津若松市の大熊町立大熊中学校で開催しました。

「被災から6年、震災の記憶が徐々に風化していく中、こうしたイベントを継続し、忘れずに訪れてくれるのは本当に嬉しい」と喜んで頂き、改めて地道に継続することの大切さを知ることができました。



輪ゴム銃づくり



のこぎり体験

これまで計6回実施

- 2013年10月 岩手県大船渡市
- 2014年 4月 宮城県名取市
- 2014年10月 岩手県宮古市
- 2015年 4月 伊豆大島
- 2016年 4月 福島県南相馬市
- 2017年 4月 福島県会津若松市

（2018年3月末現在）

番組を通じた災害復興支援／その他

フジテレビ・BSフジ・ニッポン放送では東日本大震災から7年、熊本地震から1年経った現状や、今なお残る問題点などを番組を通じて伝えました。

東日本大震災から7年

『FNN3・11報道特番 その避難は正解か!?』

フジテレビ

東日本大震災で「その場所に避難しろ」と言われ逃げた人たちがその“避難先”でなぜ命を失ったのか。坂上忍氏が去年に引き続きキャスターとして出演。宮城県石巻市を訪れ、生存者の方たちの証言を聞きました。情報制作局と共同制作し津波検証企画『わ・す・れ・な・い』を特番内で放送。残された独自映像で生死を分けた「避難」というものを考えました。

行政や勤務先から指定されている避難場所が正しいのか？どのような場所なのか？を実際に東京都葛飾区の避難場所まで歩き実験・検証しました。また、かつて風評被害で売れていなかった福島県の野菜が7年を経た今、消費者からどのような意識で受け止められているのか、さらに番組独自で福島を含む各地方の放射線検査を行い、現状を取材しました。

[2018年3月11日13:00～15:10放送]



朝の情報番組『めざましテレビ』で被災地の現状を報告



『めざましテレビ』では、震災を風化させないよう被災地の“今”を独自の切り口で伝え続けています。熊本地震から1年経った2017年4月、「がまだせ（がんばれ）！熊本」と題し1週間に渡りキャスターや木曜パーソナリティの伊野尾慧さん（Hey! Say! JUMP）が被災地に赴き、1年後の現状をリポート。また「キラビト」のコーナーでも、熊本で輝く人たちにスポットをあてた企画を1週間放送しました。4月14日には三宅正治アナ、永島優美アナが熊本城内から中継。熊本の“今”を伝えました。また、2018年3月7日～9日には、「東日本大震災 被災地の若者たち7年目の主張」をテーマに、永島アナ、久慈アナ、伊野尾慧さんが、岩手、宮城、福島の3県に住む若者たちを取材、被災地で頑張る若者たちの様子を伝えました。



バラエティ番組による被災地支援



『バイキング』では、東北の被災地を訪問して坂上忍がお手伝いする旅を3月5日～9日の5日間放送。2018年は福島県に赴き、津波の被害にあったフードテーマパークをはじめ、保育園やトマト農園、老舗旅館でお手伝いをし、福島の皆さんと笑顔で触れ合いました。また『めちゃ2イケてるッ!』では、メンバーが22年で初めて番組内でネタ対決する企画をトークネットホール仙台で収録。震災後から続けている「東北復興企画」の一環で、仙台放送の協力のもと、400人の観覧希望者を無料で招待しました。また、震災直後から交流が続いている「南三陸さんさん商店街」の皆さんにも観覧して頂きました。[2018年3月3日放送]

『甦れ！東北の鉄路2018東日本大震災から7年』

BSフジ

BSフジでは東日本大震災直後から被災地に入り、東北の鉄路の被害状況取材。2012年3月『甦れ！東北の鉄路』と題して放送し、その後被災路線の取材を積み重ね、毎年シリーズで放送してきました。シリーズ7回目となる今回は、東日本大震災から7年を経て鉄路が復旧した町と鉄路が消えた町の変貌と住民の暮らしの変化に迫りました。

[2018年3月11日 18:00～19:55放送]



「東北・みやぎ復興マラソン2017」 『東北魂TV』が全面的協力

BSフジ / 仙台放送

東北の復興を応援してきた『東北魂TV』[BSフジ 毎週日曜23:00-23:30放送]が、2017年は「東北・みやぎ復興マラソン2017」[9月30日・10月1日]に全面的に参加、盛り上げに貢献しました。出演メンバーの鳥居みゆきとトミドコロが、フルマラソンに初挑戦し見事完走。この大会は、仙台放送主催で東日本大震災で津波の被害を受けた宮城・名取市、岩沼市、亶理町を舞台に開催されたもので、震災後宮城県内では初となる公認フルマラソン大会です。全国から約1万5,000人のランナーが集まり、被災地復興をマラソンを通じてアピール。この模様を仙台放送とBSフジで生中継しました。また『東北魂TV』メンバー全員が中継に参加、メインMCはサンドウィッチマン、リポーターをマギー審司が務めるなど大会を盛り上げました。番組『東北魂TV』でも、出演メンバーの練習から本番までの約半年間の密着ドキュメントを11月12日に放送。これからも『東北魂TV』の放送を通じて被災地を盛り上げ、支援を続けていきます。



- 『JAグループスペシャル 東北・みやぎ復興マラソン2017～ともに、未来へ～』
[2017年10月1日 13:00～14:30放送]

ニッポン放送報道スペシャル 『いま、共に～未来をひらく大川小学校』

平成29年日本民間放送連盟賞ラジオ報道番組優秀受賞

ニッポン放送

東日本大震災の記憶を風化させないために、ニッポン放送は被災地からの報道を続けています。宮城教育大学3年の佐々木奏太さんの父親は、当時大川小学校2年生の担任でしたが、津波にのまれて亡くなりました。奏太さんは現在、大川小学校の跡地で、亡くなった児童たちの遺族とともに、当時を伝える伝承活動を行っています。「大川小学校の悲劇」を伝え、同じ過ちを繰り返さないための様々な教訓を訴える姿を追ったドキュメンタリー番組は、平成29年日本民間放送連盟賞ラジオ報道番組優秀を受賞しました。[2017年4月30日 25:30～26:25放送]

「支えたいプロジェクト」

サンケイリビング新聞社

2011年3月下旬より、リビング新聞ネットワークとして被災者の生活支援を目的に「リビング新聞 支えたいプロジェクト」募金活動を行っています。第9期の義援金は「平成29年7月九州北部豪雨」に対するもので、7月13日～9月末の期間、43万9,000円が集まり、西日本リビング新聞社に送金しました。その後25,400円が集まり、1月5日に送金。合計で第9期の寄贈総額は合計46万4,400円。第1～9期の累計額は2,368万4,160円となりました。



<第9期 寄贈額> 合計 46万4,400円 1期～9期の累計額 2,368万4,160円 (2018年3月末現在)

災害情報システムの提供

フジミック

緊急の大規模災害に備え、セキュリティと安定性に優れたネットワーク網により災害情報や気象情報をリアルタイムに提供できるクラウドサービスによる災害情報システムを構築しました。フジテレビやその他の放送局に加え、駅や商業施設など多くの人が集まる公共の場所に設置されたデジタルサイネージにも情報を提供しています。[2014年4月1日～継続]





環境のために For Environment

東京臨海副都心まちづくり協議会 花と緑のフラワーフェスタ

私たちは地球環境のためにできることは何かを考え、身近な生活の中でひとりひとりができることを実行するとともに、企業として環境に配慮した活動を行っています。

フジ・メディア・ホールディングス各社

フジ・メディア・ホールディングス 合同清掃活動〔年3回〕

毎年3月・7月・10月にフジ・メディア・ホールディングス各社の有志が集まり、お台場エリアの清掃活動を行っています。この活動は2012年10月から始まり、これまでに16回実施。今ではすっかり定着し、参加者は 毎回70人を超えています。ホールディングスの“結束力”を感じるとともに、日ごろあまり顔を合わせない人との コミュニケーションの場にもなっています。



2018年3月15日第16回清掃活動には15社から72人が参加、70リットルのゴミ袋18個分のゴミを回収しました！



省エネルギーの取り組み

フジ・メディア・ホールディングス各社

● フジ・メディア・ホールディングス 全社共通ポスターによる クールビズ・ウォームビズの実施

毎年夏のクールビズと冬のウォームビズの共通ポスターを作成し、各社に掲示しています。



リサイクル・省資源への取り組み

フジテレビ / フジ・メディア・テクノロジー

全社をあげて大規模なフリーマーケットを開催 [2017年8月8日開催]

毎年、夏のイベント期間中の8月8日「フジテレビの日」に、本社屋にてチャリティ・フリーマーケットを開催しています。社員が持ち寄った品物を、社員・スタッフが総出で販売。掘り出し物を狙って開始前から列を作って並ぶほどの人気イベントです。2017年の売上は115万7,218円となり、全額をFNSチャリティキャンペーンに寄付しました。



● 廃材処理を通じた環境への取り組み

フジテレビ / フジアール

番組セットなどを廃棄する際、処理を大道具制作会社に委託せずに、全番組の廃材をまとめて廃棄事業者に直接委託する「一括処理」を行っています。この取り組みは2010年以来続けられていて、排出事業者としての責任を全うすると同時に、リサイクル率向上と処理費用の低減につなげています。

家族で楽しめるイベントで楽しいエコライフを提案

クオラス

「ロハスフェスタin光が丘公園」 の企画・運営



「みんなが身近なことから楽しんで実践できるロハス・エコ」を提案する環境保護イベントを企画・運営しています。環境省や東京都、練馬区なども後援し、来場者に環境に対する意識向上を図りました。これまでに東京で計9回開催しています。

[2017年9月16日～18日開催]



地球温暖化防止や環境保全に
熱心に取り組む企業などを表彰

地球環境大賞

フジテレビ / BSフジ

地球環境大賞

「地球環境大賞」は、フジサンケイグループが「産業の発展と地球環境との共生」をめざし、世界自然保護基金（WWF）ジャパン（名誉総裁・秋篠宮殿下）の特別協力を得て、1992年に創設した産業界を対象とする顕彰制度です。

2017年4月10日には第26回目の贈賞式が行われ、今日では日本を代表する環境顕彰制度として広く社会に定着しています。フジ・メディア・ホールディングス各社は「地球環境大賞」をサポートすることにより「環境」と「経済」そして「社会」との調和による豊かで活力あふれた国づくりの実現に少しでも役立ちたいと考えています。



秋篠宮ご夫妻をお迎えして東京・元赤坂の明治記念館で行われた第26回地球環境大賞の授賞式

第26回 受賞者

- 地球環境大賞 富士通株式会社
窒化ガリウムを活用した世界最小・最高効率のACアダプター開発
－温室効果ガス削減への貢献－

- | | |
|----------------|-----------------------|
| ● 経済産業大臣賞 | 積水ハウス株式会社 |
| ● 環境大臣賞 | レンゴー株式会社 |
| ● 文部科学大臣賞 | 香川県立多度津高等学校 |
| ● 国土交通大臣賞 | 大和ハウス工業株式会社 |
| ● 日本経済団体連合会会長賞 | 大日本印刷株式会社 |
| ● フジサンケイグループ賞 | 麒麟ホールディングス株式会社 |
| ● 奨励賞 | アエラホーム株式会社 |
| ● 奨励賞 | 特定非営利活動法人アースライフネットワーク |



富士通株式会社 田中達也代表取締役社長

詳しい内容につきましては地球環境大賞公式HPをご覧ください。
<http://www.fbi-award.jp/eco/>

● 特別番組『地球環境大賞2017～東大生100人×“ニッポンの未来”～』

フジテレビ 2017年6月17日 10:45～11:45 / BSフジ 6月24日 15:00～16:00 放送

「環境について詳しく知らない人が多い。このままではその先の改善につなげていけない」そんな思いから、ひとりひとりが自身の視点で環境問題を考え、できることを実行することで、環境への関心を高め、新たな成果を生む原動力になるというコンセプトで番組を制作。受賞企業・団体の優れた取り組みをわかりやすく紹介しました。



マネジメント体制 Management

フジ・メディア・ホールディングスのコーポレート・ガバナンス・内部統制・コンプライアンスにつきましては、以下のホームページのマネジメント体制をご覧ください。

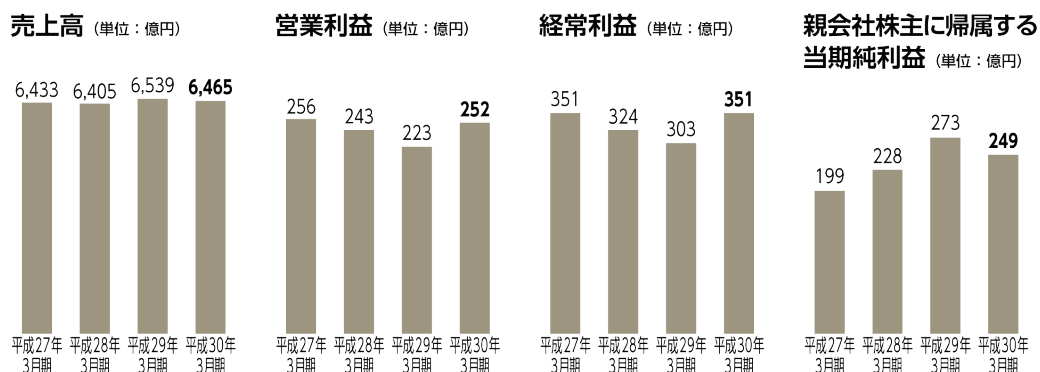
コーポレート・ガバナンス	http://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance.html
内部統制	http://www.fujimediahd.co.jp/corporate/governance1.html
コンプライアンス	http://www.fujimediahd.co.jp/corporate/compliance.html

財務サマリー Financial Summary

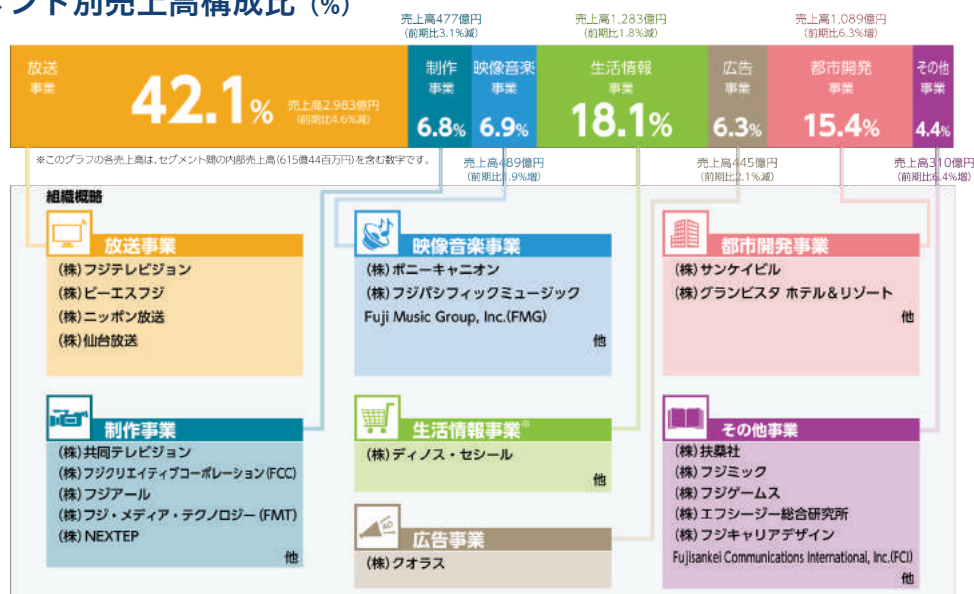
業績ハイライト [平成29年4月1日 - 平成30年3月31日]

ポイント

- 売上高は、放送事業、制作事業、生活情報事業、広告事業が減収となり、全体では減収。
- 営業利益は、放送事業、制作事業、映像音楽事業、広告事業、都市開発事業、その他事業が増益となり、全体では増益。
- 経常利益も増益となったが、親会社株主に帰属する当期純利益は前期に計上した負ののれん発生益等の反動により減益。



セグメント別売上高構成比 (%)



関連会社 (株)産業経済新聞社、(株)フジランド、日本映画放送(株) 他

※ (株)サンケイリビング新聞社は2018年3月に連結子会社から持分法適用関連会社になりました。

SDGsに向けた取り組み



今年度のレポートでは、2015年9月に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals=SDGs）の17の目標に関連する活動にアイコンを付けました。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2015年の9月に国連で開かれた「国連持続可能な開発サミット」で、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。アジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画として、宣言および目標をかがげました。この目標が、ミレニアム開発目標（MDGs）の後継であり、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。

- 目標1： あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 目標2： 飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 目標3： あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 目標4： すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5： ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標6： すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 目標7： すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8： すべての人々のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワークを推進する
- 目標9： レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
- 目標10： 国内および国家間の不平等を是正する
- 目標11： 都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする
- 目標12： 持続可能な消費と生産のパターンを確保する
- 目標13： 気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 目標14： 海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 目標15： 陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 目標16： 持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標17： 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



会社概要

商号	株式会社フジ・メディア・ホールディングス FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.
事業内容	認定放送持株会社
事業所	本社 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号
設立	1957（昭和32）年11月18日 株式会社フジ・メディア・ホールディングスは、2008年10月1日付けで、 認定放送持株会社への移行に伴い、「株式会社フジテレビジョン」から商号変更し、 「株式会社フジテレビジョン」の事業は新設の「株式会社フジテレビジョン」が承 継しました。
資本金	1,462億35万円
連結従業員数	7,484名
代表者	代表取締役会長 嘉納 修治／ 代表取締役社長 宮内 正喜

フジ・メディア・ホールディングス CSRレポート2018

- 対象期間
2017年4月1日 - 2018年3月31日
- 発行時期
2018年7月

ホームページでもCSRに関する情報を開示しています。
<http://www.fujimediahd.co.jp/csr/>

